

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 桜ユニット		
所在地	熊本県熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	令和3年3月11日	評価結果市町村受理日	令和3年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アビールしたい点(事業所記入)】

基本理念にありますように一人一人の想いに寄り添い、理解し共感することを大切にその人らしく「ひだまり」のような暖かい雰囲気の中で「家」に居るような雰囲気の中で穏やかに余生を送って頂けるようスタッフ一同お手伝いをさせていただきます。令和2年12月末日からはより良質なサービス提供を目指して協力医療機関を変更。系列のグループホームの協力医療機関でもあり訪問診療に熱心に取り組まれ、緊急時をはじめとするご利用者への医療面での支援体制は今まで以上に手厚くなっている。残念ながら現在新型コロナウイルス感染対策として、面会の自粛行っておりご利用者、ご家族にとっても寂しい思いをされている状況です。リモート面会や定期的なお手紙等にてできるだけ安心していただけるよう努めています。平常時に戻ればご家族との交流の場を増やすとともに地域とのつながりを大切に信頼して頂ける施設作りに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の現状に注視しながら、コロナ禍により外出制限や外部との接触も難しい中で室内でのレクレーションや週に1回のPTIによる運動療法、縁日形式での夏祭り等職員の創意工夫により今できる最大限の楽しみ事等を提供している。家族の希望にも向き合い、協力医療機関の協力や訪問看護及び職員が一体となった看取りケアの実践は職員のケア向上に生かしている。管理者を中心とした職員同士の意思疎通も良く、入居者の心身の状態に応じた細やかな支援が、その人らしい暮らしを継続させており、職員の気配りの成果が表れている。男性入居者の干し柿作りへ挑戦、晩酌の継続、母の日・父の日のメニュー等の他、入居者同士の会話も弾み、仲良く過される様子も垣間見られるホームである。新年度には接遇委員会を発足させケア向上を図ると意欲的な姿勢と共に、コロナ収束を視野にした計画もあり、これまで築き上げてきた地域の中での生活の再開に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念並びに経営理念をリビング内、事務所等に掲げ朝礼時に基本理念の唱和を行い常に職員が目にして意識付けし実践できるよう心掛けている。	開設して3年の経過のなかで、ケアに対する馴れが出始めるのを危惧し、朝礼後の唱和をその日々スタートとする等、意識強化に努めている。また、ホームとして認知症ケアの研修充実や入居者本位の支援、チームケアの向上としてチームとしてまとまっていくこと等5項目を掲げ、ケア会議で振り返り、日々のケアに反映させている。更に、新年度に向け接遇委員会を発足させるとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが終息し平常時に戻れば地域の方々を招いて敬老会などを開催する。また地域の催しやふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図る。	新型コロナ感染症対策として、地域へ出向きながらの交流が困難な状況にあり、テラスでの外気浴や縁日形式での夏祭り、週1回の法人PTIによる体操等工夫しながら、入居者の笑顔ある日常を支援している。コロナ収束次第で交流促進に努める意向も確認できた。	地域の会議(自治会)はスタートされたとの情報が得られており、地域行事が開催され次第、地域の中に出かけられることが期待される。老人会長から訪問できるようになれが見学したいとの声が挙がっており、気軽に地域住民が立ち寄れるホームや地域交流室の有効活用等を検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ終息後は、老人会や民生委員の方々に施設見学の希望があれば積極的に活用して頂きたい。ふれあいサロンでの講話や認知症声かけ訓練に参加していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は当面中止しており文書での通知を行っている。コロナ終息を見計らいながら再開をし防災等色々な意見交換を行いたい。	現在は文書報告として、運営体制の変更(協力医療機関の変更等)や、面会制限の一時緩和条件、事故報告等ホームの現状を発信し、直接委員に持ち届けながら、意見等を収集している。身体拘束適正化委員会としての機能は発揮でない状況にあるが、収束すればまた開始する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があった場合は状況や原因、再発防止などの報告を行い指導、助言をいただいている。コロナ禍で認知症サポートリーダー研修の実習受け入れはできていないが終息時には介護相談員の受け入れも含めて進めたい。	実地指導や、事故報告に出向きながら適切な助言を受けている。また、新型コロナウイルス感染症の情報を得ながら感染予防対策を講じる等協力関係を築いている。また、介護認定更新時に情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束についてアンケートをとったりして具体的な行為を熟知すべく心掛けている。しかし転倒防止の為、いくつかの居室内にセンサーを設置、居室窓の開閉の制限はしているがテラスへの通用窓は開放している。	身体拘束適正化委員会として運営推進会議を活用したが、今年度はケア介護の中で新聞報道等の虐待も含め話し合い、定期的に身体拘束及び不適切ケアチェックにより職員個々が自身を振り返っている。転倒防止として使用する人感センサーをプランに組み入れ、ケアカンファレンスで検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図る為に3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを行って虐待が起こらないよう又見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修資料や内部研修にて理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご見学の段階で料金表等を確認しながら説明し、また契約時に不明な点が無いか確認し納得して頂いたうえで契約を交わしている。料金改定時は文書の交付、同意書を頂き理解納得を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の際にご家族に参加して頂きご意見や要望等を頂いている。またその都度意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映できるようにしている。コロナ終息時には介護相談員の派遣を再度進めたい。	家族宛に2ヶ月毎に担当者が写真を添えた手紙により情報を発信し、担当者会議や運営推進会議時に意見や要望を聞き取りする他、遠方の家族には電話で聞き取りしており、家族の要望として挙がっていた事案である風呂場にリフトが設置されている。コロナ禍で職員と家族との接点も少なる状況であろうと推察される。その中で“ひだまり”新聞はホームの日常を映し出しており、家族への情報発信源として生かされている。この中で職員紹介欄も設けると更によいと思われる。	コロナ収束後への計画が様々に検討されており、家族との親睦会や意見交換会等も検討いただき、家族の忌憚のない意見や要望を収集する手段としていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に代表者も参加され意見や要望を伝えている。職員の意見を聞く機会として職員面談を実施。	毎月のケア会議に法人代表者も出席されており、職員の意見や設備面等が話し合われる他、家族からの要望等も検討する機会としている。また、管理者会議として系列の5グループホームでの会議も行われており、コロナの状況によってはリモートで話し合う等法人全体の情報の共有及び質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度への取り組みや管理者会議、定期的な会議に代表者も参加され職員の意見を伝えやすい場がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモートでの参加にはなるが県主催の認知症研修や外部の研修など積極的に取り組まれている。内部研修は毎月担当者を決め行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で連絡会や他施設での研修には参加できていない。終息時には平常時と同様に研修等に参加し交流を通じながら情報交換を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・主任が入居前に本人様、ご家族様空の情報収集や居宅ケアマネ、病院連携室などから情報収集を行っている。コロナ禍で面会は中止しているがリモート面会やドア越しで本人様のご様子やお顔を拝見して頂くなどし安心を確保できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者の性格や日常の動向、また食事の好き嫌い等の情報と共に、生活に関わっての要望等を聞かせて頂きながらご家族の不安の解消と共にご意見や要望があればいつでも申し出てほしい旨を伝えご家族の安心に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談等でご利用者、ご家族にとって今一番必要としているサービスを検討しつつ、他事業所等との連携を図り必要に即した支援対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のこれまでの生活スタイルを尊重し生活に関わって、出来る事、したいこと、したいけどできない事等を見極めながら、洗濯物を畳んで頂いたり家事の一部をご利用者にも無理のない範囲でお手伝い頂き関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のなか、現在は、リモートや電話、定期的なお手紙などによりご家族と密に連絡を取ることによって共にご本人様を支える支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間の制限はあるがリモート面会や電話のできる環境を保持し、現状の状況でもご家族をはじめとする馴染みの方とのこれまでの関係が継続できるよう支援に努めている。	コロナ禍で外出制限もあり、今できる最大限の関わりを継続させている。入居しても晩酌をされる入居者、家族が好きな食べ物等を持参されたり、家族との電話や窓越し、リモート面会、カレンダーを活用し家族との電話や入浴日を記したり、新聞に目を通す等これまでの生活をホームでも継続されている。また、入居者と職員の関係性も築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入りご利用者同士の会話が生まれ孤立感や孤独感をできるだけ感じ事のないように努めている。テーブル席の配置転換も状況を見ながら調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もこれまでの関係性を大切に必要に応じてご本人、ご家族からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から伺っている希望、意向を大切に、又日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応するように努めている。定期的にカンファレンス等で話し合い情報共有し対応している。	入居者個々の思いの実現に向け、日常生活の中での聞き取りや、意思疎通困難な状況には表情・行動等で推測し、ケアプランに反映させ実践している。言葉として思いを出すことが難しい入居者に、介護計画作成担当者がスタッフとの場面を見て、穏やかに仲良く過したいとの気持ちを感じ取り、プランに具体的に組み込み事で職員のケアに繋げる等、職員の日々のケアの中で意向等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より情報収集しご希望が継続できる部分は継続できるよう職員が情報を共有しご利用者の生活が継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護記録等を作成し更に職員が気づいた事等を申し送りノートに記載し出勤時には必ず閲覧しつつ検討し個人の現状の把握、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成だけでなくカンファレンスでの他職員の意見やご家族、ご本人の意見、意向を参考に現状に即した介護計画が作成できている。	本人・家族及び職員の観察結果をもとに、担当スタッフに聞き取りしたケアマネジャーによるモニタリングやヒヤリハット事例により家族に説明し計画の継続可否を見極めている。家族にケアプランの方向性について原案内容を説明し、合意の上で正式なプランとしており、現状に即した個別的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノート等の個々の状態や状況を記録することにより職員間の情報共有、把握と共にケアプランの作成や実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、訪問マッサージ、訪問理美容、法人内のPTによる定期的なリハビリ支援など柔軟に提供支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状下では出来ていない状況であるが終息時にはボランティアの協力依頼や地域行時にも積極的に参加していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	R2.12月末日より、より良質なサービス提供を目指して協力医療機関を変更。系列のグループホームの協力医療機関でもあり複数の医師が常駐されており緊急時をはじめとする医療面での支援体制は今まで以上に手厚くなっている。	本人・家族の希望に確認、及び訪問診療についての説明により同意を得て、訪問診療を活用しており、殆ど毎日診療に訪問されており、他の方の相談事も行えることから適切な指示を早い段階に受ける事が出来ている。口腔ケアについて近隣歯科より必要に応じた訪問診療が行われている。日頃の健康管理や医療機関との連携、法人理学療法士による運動療法等、入居者の健康を支え家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートや訪問診療ファイルを利用し情報共有できるようにし職員との情報交換を行い迅速に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、ご本人の状態把握するとともに安心できる入院生活が送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の相談員等と緊密に情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ訪れるであろう重度化や終末期については入居時や担当者会議、状態変化時に説明、意向の確認を行うようにしている。	入居時にホームの方針を伝え、その時点での意向を書面(意思確認書)で確認しており、望まれる支援に努めている。看取り支援には、訪問診療や訪問看護との連携により支援し、ホームで2例目となる方の支援が昨年度行われている。その際は本人の好みの食べ物や飲み物など、摂取できる物を家族の協力を得ながら最終を過ごされている。看取り支援後の振り返りでは、家族からの感謝の言葉を受けながらも、思うような事が出来なかったという反省もあがったようである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成し、内部研修で事例を交えながら急変や事故発生時に備えて応急処置や対応の指導を看護師よりおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関する訓練は定期的に消防署通報訓練も含め行っている。災害時の備蓄品に関しては、賞味期限等も確認しながらその都度補充を行っている。	今年度は11月に入居者の避難誘導を含め、昼想定消防訓練が行われているが、夜間想定訓練は次年度に行う予定である。11月の訓練では、通報装置の不具合が見つかったことで、管理者は訓練の意義などあらためて感じた事を語っている。水害については、自治会にこれまでの状況などを聞き取りしている。ホーム内の安全チェックや災害備蓄については、賞味期限を確認しながら必要な補充が行われている。	運営推進会議で、自治会と連携し期待しているが、まだ進んでいない状況にある。自然災害について、机上を含めた訓練や地域との連携について話し合いの機会を持たれることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3か月に1回の不適切ケアチェックシートを職員に配布し日ごろのケアの振り返りを行っている。またスピーチロックについてのアンケートを行っている。	不適切ケアは尊厳やプライバシーにも繋がることから、チェックシートを活用し振り返りを行っている。身だしなみやおしゃれのひとつとして、訪問カットも感染症の状況を見ながら再開され、入居者の中には下着類を自身で洗濯し、居室内に干すことを継続されている方もおられる。	振り返りシートは見直されており、今後は発足する接遇委員会を中心に、記録、配布書類の内容など細やかな点への配慮についても検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには十分に配慮しゆっくりと会話ができるように心がけている。できるかぎりご利用者の意に沿えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者中心でないような場面も見受けられるので、業務等の見直しも含めご利用者のペースを大切に希望に沿って支援できるように努めて行く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては訪問理美容サービスを活用している。個々の身だしなみに注意し入浴後の更衣もできるだけ本人の意にそぐわないことがないように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、行事等で季節感を取り入れたり、手作りおやつをご利用者と一緒に作ったりしている。一部の方には準備や片付けを手伝ってもらっている。個々の好みに応じて工夫し美味しく、美しく食事をしていただくよう心掛けている。	法人から届く献立をホームでアレンジしながら専任者が中心に調理し、楽しい食事となるよう季節感や盛り付けにも配慮し、食事形態や菓物が苦手な方には野菜ジュースで対応するなど個別に支援している。おせちや雛まつり等の行事食の他、父の日メニュー(男性のみ鰻食)、母の日メニューで普段より豪華な食事の提供、花見気分を味わう手作り花見弁当など工夫した食を提供している。おやつもバイキングや希望を取り入れ、ようかん、おはぎ、ぼた餅などを甘さを控え提供している。	配膳や下膳、お盆拭き、男性入居者も参加された干し柿作りなど、出来ることで食へ関わられている。職員は全員弁当を持参しているが、味や量の確認に加え、入居者の思いを共有する代弁者として、一人でも同じ食事を摂ることを検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。水分摂取には嚥下状態も見ながら水ゼリーを味を数種類に分け提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科訪問診療、指導を受けている。毎食後の口腔ケアを欠かさずに行い夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で個々の排せつパターンを把握し、こまめに声かけ・誘導することにより失禁を減らしトイレでの排せつが継続できるよう支援している。	リハビリパンツを使用される方が殆どであるが、布パンツで過ごされる方もおられる。自立の方も多く、職員は見守りながら支援している。昼夜の排泄用品の使い分けや、夜間使用されるポータブルトイレの対応についてなど、個々に応じた支援方法を検討されている。排泄用品はホームでの準備と家族の持参もあり、購入の参考になるよう現状や適切な用品について伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者によってはヨーグルト、ヤクルト等を提供するなどスムーズな排せつができるよう支援している。医師からの指示があるご利用者は下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状況を見ながら対応し入浴支援に努めている。特浴設置により車椅子の方も負担が少なく入浴できるようになった。	入居者の体調に応じ、基本的に週2～3回、午後からの入浴を支援している。「銭湯に行くから」などの拒否の理由もくみ取りながら、時間をずらしたり翌日に変更しながら間隔が空かないようにしている。重度化されると入浴が難しくなってくるが、一つのユニットにリフトが設置されたことで、可能な限り支援できると管理者は喜びを語っている。菖蒲や柚子湯等、全員が楽しめるよう2日間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者はその時々状況に合わせて休息できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテ内にとじ職員が把握できるようにしている。薬は所定の場所に保管し与薬時は名前、日付、食事毎の確認、声を出して確認、チェック表にもサインをし責任の所在を決め誤薬あないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に楽しみや気分転換を図るように努めている。お盆吹きなど役割を張り合いにされている方もいらっしゃるが負担にならないような配慮にも注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は現在行っていないがテラスへの出入りは常時開放しておりプランターにて季節の花や野菜の栽培をしている。洗濯物を干したり思い思いに行動できるように支援している。	今年度はホーム内で外出気分や楽しみ事に創意工夫しており、縁日形式の夏祭りでは楽しいひと時を過ごされている。テラスの日光浴やプランターでの野菜作りなど外気に触れる機会としている。「以前よく利用していた地元デパートへの買い物の要望も出されており、感染症の早い収束が待たれる。	今春も近隣公園への桜見物は難しい現状を語っており、外出に変わる支援を検討いただきたい。車窓ドライブやDVD・ビデオを使った花見など工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は規程にご家族から同意をいただき事業所にて預かり本人の希望にて買い物支援なども行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があればその都度ご利用いただけるよう努めている。但し、電話に関しては頻度、時間帯を考慮しご家族に無理のないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置いたりしてゆっくり過ごせる環境作りを心掛けている。四季の移り変わりを壁面装飾や居室の入り口の棚を利用して楽しめるようにしている。玄関の装飾も季節感が感じられるように努めている。	玄関やリビングホールには飾り物や草花などの配置により季節感を醸している。また、ホーム内の活動に力を入れており、訪問当日も週1回法人PT(理学療法士)による運動療法が実施されており、入居者が声を出しながら意欲的に取り組まれる光景が見られた。感染症への対策として、これまでで以上に掃除や換気、消毒を徹底している。	地域交流室は明るく外の様子も眺められ、外出を控えている現在、様々な活用方法を検討いただきたい。また、地域を知るための資源マップについては、作成時からの変更がないかなど定期的に確認することで更に、入居者や職員が利用できる場所のリサーチに活用いただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビング中心になっておりご利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、歌詞カードや大正琴の演奏に合わせて童謡を歌ったりと思ひ思いに過ごせるよう支援している。テラスには椅子を配置してゆっくり一人の時間を過ごせる工夫を行っている。	/	/
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵やご家族との写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう努めている。	現在は交流室で居室の説明を行い、庭に面した部屋を窓越しに見てもらっている。部屋の移動は基本的に行わないが、身体状況で、本人・家族の了承のもと実施したり、居室入り口に「ここは〇〇様の部屋」と示すなど、個々に応じて過ごしやすさや安全面に配慮した環境に努めている。収納用として小さめのタンスは準備しているが、衣装掛けなど必要に応じ持参されている。テレビを多くの方が持ち込まれているが、視聴される方は殆どおられないようである。	コロナ禍の中、共用空間同様、居室内の様子は家族にとって気になるところであり、今後も安心に繋がるような情報発信に期待したい。以前から家族から電話連絡があった日にカレンダーに〇印を付ける方など、変わらぬ日常を過ごされている。今後も入居者にとって居室が安眠に加え、安心できる場所となるよう継続して支援されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使われる場所などわかりやすく表示をしたりしている。ご本人ができることは多少時間がかかっても見守りながら行っていただいている。	/	/

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 榎ユニット		
所在地	熊本県熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	令和3年3月11日	評価結果市町村受理日	令和3年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にありますように一人一人の想いに寄り添い、理解し共感することを大切にその人らしく「ひだまり」のような暖かい雰囲気の中で「家」に居るような雰囲気で穏やかに余生を送って頂けるようスタッフ一同お手伝いをさせていただいております。令和2年12月末日からはより良質なサービス提供を目指して協力医療機関を変更。系列のグループホームの協力医療機関でもあり訪問診療に熱心に取り組み、緊急時をはじめとするご利用者への医療面での支援体制は今まで以上に手厚くなっている。残念ながら現在新型コロナウイルス感染対策として、面会の自粛行っておりご利用者、ご家族にとっても寂しい思いをされている状況です。リモート面会や定期的なお手紙等にてできるだけ安心していただけるよう努めています。平常時に戻ればご家族との交流の場を増やすとともに地域とのつながりを大切にし信頼して頂ける施設作りに努めて行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念並びに経営理念をリビング内、事務所等に掲げ朝礼時に基本理念の唱和を行い常に職員が目にして意識付けし実践できるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが終息し平常時に戻れば地域の方々を招いて敬老会などを開催する。また地域の催しやふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図る。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ終息後は、老人会や民生委員の方々に施設見学希望があれば積極的に活用して頂きたい。ふれあいサロンでの講話や認知症声かけ訓練に参加していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は当面中止しており文書での通知を行っている。コロナ終息を見計らいながら再開をし防災等色々な意見交換を行いたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故があった場合は状況や原因、再発防止などの報告を行い指導、助言をいただいている。コロナ禍で認知症サポーター研修の実習受け入れはできていないが終息時には介護相談員の受け入れも含めて進めたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束についてアンケートをとったりして具体的な行為を熟知すべく心掛けている。しかし転倒防止の為、いくつかの居室内にセンサーを設置、居室窓の開閉の制限はしているがテラスへの通用窓は開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図る為に3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを行って虐待が起こらないよう又見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修資料や内部研修にて理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご見学の段階で料金表等を確認しながら説明し、また契約時に不明な点が無いか確認し納得して頂いたうえで契約を交わしている。料金改定時は文書の交付、同意書を頂き理解納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の際にご家族に参加して頂きご意見や要望等を頂いている。またその都度意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映できるようにしている。コロナ終息時には介護相談員の派遣を再度進めたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に代表者も参加され意見や要望を伝えている。職員の意見を聞く機会として職員面談を実施。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度への取り組みや管理者会議、定期的な会議に代表者も参加され職員の意見を伝えやすい場がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモートでの参加にはなるが県主催の認知症研修や外部の研修など積極的に取り組まれている。内部研修は毎月担当者を決め行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で連絡会や他施設での研修には参加できていない。終息時には平常時と同様に研修等に参加し交流を通じながら情報交換を行う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・主任が入居前に本人様、ご家族様からの情報収集や居宅ケアマネ、病院連携室などから情報収集を行っている。コロナ禍で面会は中止しているがリモート面会やドア越しで本人様のご様子やお顔を拝見して頂くなどし安心を確保できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者の性格や日常の動向、また食事の好き嫌い等の情報と共に、生活に関わっての要望等を聞かせて頂きながらご家族の不安の解消と共にご意見や要望があればいつでも申し出てほしい旨を伝えご家族の安心に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談等でご利用者、ご家族にとって今一番必要としているサービスを検討しつつ、他事業所等との連携を図り必要に即した支援対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のこれまでの生活スタイルを尊重し生活に関わって、出来る事、したいこと、したいけどできない事等を見極めながら、洗濯物を畳んで頂いたり家事の一部をご利用者に無理のない範囲でお手伝い頂き関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のなか、現在は、リモートや電話、定期的なお手紙などによりご家族と密に連絡を取ることによって共にご本人様を支える支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間の制限はあるがリモート面会や電話のできる環境を保持し、現状の状況でもご家族をはじめとする馴染みの方とのこれまでの関係が継続できるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入りご利用者同士の会話が生まれ孤立感や孤独感をできるだけ感じ事のないように努めている。テーブル席の配置転換も状況を見ながら調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてご本人、ご家族からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から伺っている希望、意向を大切に、又日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応するように努めている。定期的にカンファレンス等で話し合い情報共有し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より情報収集しご希望が継続できる部分は継続できるよう職員が情報を共有しご利用者の生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護記録等を作成し更に職員が気づいた事等を申し送りノートに記載し出勤時には必ず閲覧しつつ検討し個人の現状の把握、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成だけでなくカンファレンスでの他職員の意見やご家族、ご本人の意見、意向を参考に現状に即した介護計画が作成できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノート等の個々の状態や状況を記録することにより職員間の情報共有、把握と共にケアプランの作成や実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、訪問マッサージ、訪問理美容、法人内のPTによる定期的なリハビリ支援など柔軟に提供支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状下では出来ていない状況であるが終息時にはボランティアの協力依頼や地域行時にも積極的に参加していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	R2.12月末日より、より良質なサービス提供を目指して協力医療機関を変更。系列のグループホームの協力医療機関でもあり複数の医師が常駐されており緊急時をはじめとする医療面での支援体制は今まで以上に手厚くなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートや訪問診療ファイルを利用し情報共有できるようにし職員との情報交換を行い迅速に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、ご本人の状態把握するとともに安心できる入院生活を送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の相談員等と緊密に情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ訪れるであろう重度化や終末期については入居時や担当者会議、状態変化時に説明、意向の確認を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成し、内部研修で事例を交えながら急変や事故発生時に備えて応急処置や対応の指導を看護師よりおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関する訓練は定期的に消防署通報訓練も含め行っている。災害時の備蓄品に関しては、賞味期限等も確認しながらその都度補充を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3か月に1回の不適切ケアチェックシートを職員に配布し日ごろのケアの振り返りを行っている。またスピーチロックについてのアンケートを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには十分に配慮しゆっくりと会話ができるように心がけている。できるかぎりご利用者の意に沿えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者中心でないような場面も見受けられるので、業務等の見直しも含めご利用者のペースを大切に希望に沿って支援できるように努めて行く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては訪問理美容サービスを活用している。個々の身だしなみに注意し入浴後の更衣もできるだけ本人の意にそぐわないことがないように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、行事等で季節感を取り入れたり、手作りおやつをご利用者と一緒に作ったりしている。一部の方には準備や片付けを手伝ってもらっている。個々の好みに応じて工夫し美味しく、美しく食事をしていただくよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。水分摂取には嚥下状態も見ながら水ゼリーを味を数種類に分け提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科訪問診療、指導を受けている。毎食後の口腔ケアを欠かさずに行い夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で個々の排せつパターンを把握し、こまめに声かけ・誘導することにより失禁を減らしトイレでの排せつが継続できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者によってはヨーグルト、ヤクルト等を提供するなどスムーズな排せつができるよう支援している。医師からの指示があるご利用者は下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状況を見ながら対応し入浴支援に努めている。特浴設置により車椅子の方も負担が少なく入浴できるようになった。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者はその時々状況に合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテ内にとじ職員が把握できるようにしている。薬は所定の場所に保管し与薬時は名前、日付、食事毎の確認、声を出して確認、チェック表にもサインをし責任の所在を決め誤薬ないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に楽しみや気分転換を図るように努めている。お盆吹きなど役割を張り合いにされている方もいらっしゃるが負担にならないような配慮にも注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は現在行っていないがテラスへの出入りは常時開放しておりプランターにて季節の花や野菜の栽培をしている。洗濯物を干したり思い思いに行動できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は規程にご家族から同意をいただき事業所にて預かり本人の希望にて買い物支援なども行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があればその都度ご利用いただけるよう努めている。但し、電話に関しては頻度、時間帯を考慮しご家族に無理のないように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置いたりしてゆっくり過ごせる環境作りを心掛けている。四季の移り変わりを壁面装飾や居室の入り口の棚を利用して楽しむようにしている。玄関の装飾も季節感が感じられるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビング中心になっておりご利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、歌詞カードや大正琴の演奏に合わせて童謡を歌ったりと思い思いに過ごせるよう支援している。テラスには椅子を配置してゆっくり一人の時間を過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵やご家族との写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使われる場所などわかりやすく表示をしたりしている。ご本人ができることは多少時間がかかっても見守りながら行っ ていただいている。		